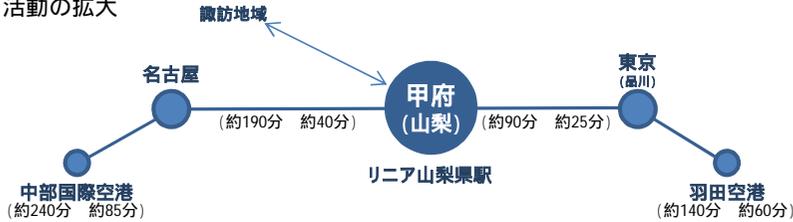


# 1 リニア環境未来都市の創造について

## 本県とリニア中央新幹線の開業

### リニア中央新幹線と開業による効果

- リニア中央新幹線は、2027年に品川ー名古屋間が先行開業し、その後、延伸され、2037年に名古屋ー大阪間が開業見込
- 大都市圏や国際空港との圧倒的な時間短縮効果による国内外の人々との交流や活動の拡大



リニア山梨県駅の利用者(乗降客)数：約12,000人～19,700人/日  
 (リニア環境未来都市の考え方を踏まえた定住促進及びインバウンド観光客の増加を考慮し、停車本数を1時間に上下それぞれ最大2本とした場合を推計(2035年時点))

## 本県の強みとリニア駅周辺及び近郊の状況

### 位置図



### 本県の強み

優れた交通アクセスと立地環境、四季の豊かな自然と清冽な水、クリーンエネルギー、全国トップレベルの企業立地支援、多彩な観光資源、質が高く特色ある農産物や地場産業、安心して潤いのある子育て環境等

### リニア駅周辺及び近郊の現状

- 河川、里山、田園など豊かな水と緑
- 中央自動車道、新山梨環状道路などの基幹道路、JR身延線など円滑な広域移動を支える交通基盤の形成
- 工業団地、病院、スポーツ公園など、産業・生活関連施設の立地

## リニア環境未来都市の基本的な考え方 (以下、リニア環境未来都市整備方針(H29.3)から抜粋)

### 基本理念

- リニアの開業効果が最初に発現する場所であり、山梨らしさを最大限に生かしながら、先導的な取り組みを實踐し、環境との共生や新たなライフスタイルが展開される都市
- 産業に活力をもたらし、住む人に潤いを、訪れる人に山梨らしさを提供することができる緑豊かで美しい都市
- 国内外から人々や企業が集まり、人的・経済的・文化的交流が行われるエリアとして情報発信することで、新たな交流が更なる交流を生むという好循環を繰り返しながら、リニア開業後も含む将来にわたる時間軸の中で成長する都市

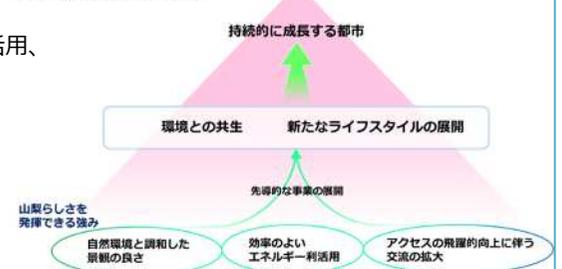
### 環境との共生

自然エネルギーの活用やエネルギーの効率的な利活用、新たな景観の形成など、環境にやさしく、自然景観を生かした生活や産業の展開

### 新たなライフスタイルの展開

豊かな自然環境と大都市の利便性を享受する豊かで潤いのある生活や多様な働き方の実現

リニア環境未来都市の目指す姿



## 対象エリアと現状の土地利用状況

### 対象エリア

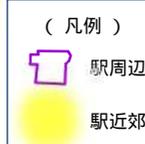
新たな玄関口となる駅周辺、リニア通勤者などの生活や新たな産業の集積などの場となる駅近郊(駅から4km程度)で構成

### 現状の土地利用状況

リニア駅は、市街化調整区域に整備



- 着色箇所：市街化区域(用途地域)
- 白色箇所：市街化調整区域(笛吹川以南は、非線引き都市計画区域)



市町村のまちづくりに関する課題に対応するため、部局横断的な相談窓口を設置

# リニア環境未来都市の創造に向けた取り組み

## リニア駅周辺

### 駅周辺の役割

- 本県の新たな玄関口として、県内各地との円滑な移動手段の確保(交通結節機能)と様々な交流や活動の拡大を推進
- 山梨の強みを最大限に発揮し、本県の魅力を国内外に広く情報発信
- 地域住民をはじめ広く県民にとっても魅力ある空間を提供

### 駅周辺の整備

- 交通エリア、観光交流・産業振興エリアに区分し、利便性の高い、魅力的な各種施設を整備
- 防災対策に配慮するとともに、クリーンエネルギーや県産材の活用などによる特色ある整備

### 交通エリア

- 中央自動車道スマートインターチェンジに直結する道路
- リニアや高速バスを利用する者のためのパーク＆ライド用駐車場
- 利用者の乗降場などを備えた駅前広場(一般交通を駅北口、公共交通を駅南口)
- 新山梨環状道路からの進入路や、駅北側と駅南側を結ぶ南北自由通路

### 観光交流・産業振興エリア

(これまでの議論において、検討された機能・施設等)

- 国内外の観光客や県民が利用する情報発信機能やサービス提供機能を有する施設
- 様々な交流・活動の拡大を図るコンベンション機能などを有する交流施設やイベント広場
- 駅近郊における産業集積の呼び水となるインキュベーション機能や研究開発機能を有する産業振興に資する施設
- 多くの人々に魅力的な空間を提供する緑地や施設利用者のための駐車場



豊かな自然環境のもと、国内外から多くの人々が集う「世界に開かれた交流拠点」の形成を目指す

エリア名	面積	備考
交通エリア	14.0 ha	駅北口交通広場、P&R等含む(中央自動車道本線部分除く)
観光交流・産業振興エリア	10.5 ha	駅南口交通広場、緑地やイベント広場等含む
【合計】	24.5 ha	(リニア駅、本線部分を除く)

今後の各種設計などにより変更があります。

## リニア駅近郊

### 駅近郊の役割

- 全国初の高速道路と新幹線が直結する立地環境や全国トップレベルの企業立地支援制度などを活用し、産業の振興や定住などを促進
- 交流の拡大や魅力の発信など、新たな取り組みを展開

### 駅近郊の目指すべき姿

- リニア通勤者などの移住・定住が進むとともに、未来のものづくりをリードする戦略拠点を形成するなど、山梨らしさを魅力として発信
- 各種サービスを提供する業務施設、リニアを活用した交流施設などの立地の誘発

### 5つの視点からの取り組みを展開

- 定住** 新たなライフスタイルの展開を目指す
  - 安全で快適な暮らしやすいまちづくり
  - 移住者の受け入れ環境の整備
  - 魅力的なライフスタイルの提案
- 産業** 未来のものづくりをリードする戦略拠点の形成を目指す
  - 産業集積の戦略的推進
  - 山梨の産業をけん引する人材の育成・確保
  - 企業の競争力の強化
- エネルギー** 災害に強く環境に優しいエネルギー自立度の高い社会を目指す
  - 自立・分散型エネルギーシステムの導入
  - クリーンエネルギーの導入拡大
  - スマートな省エネルギーの推進
- 景観** 魅力的なまちなみ景観の展開を目指す
  - 規制誘導による景観形成
  - 基盤整備による景観形成
  - 住民との協働による景観形成
- 観光交流** 様々な交流の展開を目指す
  - 魅力のある観光地づくり
  - 山梨の魅力を生かした多様なツーリズムの推進
  - 戦略的な山梨の魅力発信
  - 国際観光の推進

## リニア開業効果の全県への波及

### 交通ネットワークの整備

- 主要幹線道路等の整備によるリニア駅30分アクセス圏域の拡大、県内バス交通ネットワークの再編・整備

リニア駅から30分到達圏人口カバー率  
H27実績値 62.5%  
H28実績値 66.0% に上昇

### 広域的観光地づくりの推進

- 国内外からの交流人口を拡大させるため、広域的観光地づくりを推進

